

教育実習前半を振り返って

本学では、1、2年次の教職課程の学修を土台に、3年次に教育実習を迎えることになります。教育実習事前事後指導は、教育実習を柱に、前半を事前指導、後半を事後指導として計画的な学びを進めています。



事前指導では、秋田市立城南中学校美術科の菊地篤先生をお迎えし、学習指導案の作成の仕方や教材活用方法等について学びました。また、担当の特任教授

による面談を通して、研究授業の進め方や実習日誌の作成などについて具体的に確認するとともに、実習の心構えについて理解を深めました。

今年度の教育実習は、5月から6月にかけて実施した15名と、8月下旬から9月にかけて行う8名がおります。

実習を終えた皆さんの日誌から、教育実習の振り返りや感想を紹介します。

- ・授業や学級での生徒の関わりといった教育的な面はもちろん、人間的にもより成長した自分になれたのではないかと考えています。
- ・生徒の様子や個々のクラスの特性を理解することが重要で、日頃からのコミュニケーションや観察、情報収集が学校業務の基礎になっていることを改めて理解することができました。
- ・学校という場は、学びを繋いでいくためにあるのではないかと思います。「絶え間ない人の出入りの中で、自分以外の人から学び、また伝えていく」その流れの中に私という人間が関わり、学び合うことができたことを嬉しく思います。

教育実習事後指導は、実習を終えた10月から3回の授業を予定しており、教育実習の成果と課題を掘り起こし、教育実習の報告会を通して共有する時間としています。



野々口先生は、日頃から「教職課程は本学の5専攻には入りませんが、『人づくり』専攻！人と生きる術を学び、体験します」と話されています。教育実習を終えた皆さんに久しぶりに再会すると一皮も二皮もむけ、まるで別人に出会ったような印象を受けることがあります。教育実習を通して様々な人との出会いや体験を糧に心の器が広がったでしょう。（谷村）

次に、教育実習における授業実践の成果と実習生の皆さんの振り返りを紹介します。



コミュニケーションデザイン専攻
3年 飯沼 響さん

〔北海道足寄町立足寄中学校〕

【実習の概要】

- 実習期間 令和7年6月9日(月)～27日(金)
- 配属学級 1年A組
- 日本で一番広い町「足寄町」唯一の中学校として、卒業生や地域の方々から大切にされています。歌手の松山千春さんの母校でもあります。

【研究授業の様子】

授業実践は、学校の年間指導計画に基づき「本の世界を絵にしよう」と題して木版画の制作に取り組む全11時間の題材です。指導担当の先生から引き継いで、9、10時間目を担当し、10時間目にあたる本時では、木版画の完成を目指しました。



すでに完成した生徒や一度「刷り」を経て版画自体を修正する生徒、「彫り」の途中の生徒と、個々の進捗状況に差がある中でしたが、一人一人に応じた指導

や助言を試みようとする姿が大変印象的でした。

終始笑顔で適切な距離感で生徒と関わっており、授業以外の場面を含め、実習期間を通してコミュニケーションを深めてきた成果がよく表れていました。

導入時には版画の種類を生徒と一緒に考える場面、終末には「美術」への思いを本人が語る場面が設定されるなど、変化のある授業展開となっていました。指導担当の先生の熱心なご指導とご配慮により、教育実習の締めくくりにふさわしい授業となりました。



【実習を終えて】

授業づくりでは、計画通りに進めることの難しさを何度も経験しました。発問がうまく伝わらなかったり、予想外の反応に戸惑ったり…。生徒の反応を踏まえてその場で臨機応変に調整する必要があることを痛感しました。

一方で、生徒が真剣に話を聞き、考え、反応してくれる場面や、何気ない一言に笑顔を見せてくれた瞬間には、教師としての大きな喜びを感じることができました。

〔担当：加賀谷〕



ビジュアルアーツ専攻
4年 村川 諒さん
〔秋田県立新屋高等学校〕

【実習校の概要】

- 実習期間 令和7年6月2日(月)～13日(金)
- 配属学級 2年C組
- 生徒数480人。校訓は「自尊 自知 自制」。第1期秋田県SDGsパートナーとして地域清掃等の活動に全校で取り組んでいます。

【研究授業の様子】



研究授業の題材は「現代アートの鑑賞」。現代アートは現役の美術科教員であっても取り扱いが難しいとされる題材ですが、美大生らしさを前面に出しながら果敢にチャレンジしました。

授業では、作品の理解がスムーズに進むよう、「比較的解釈が容易な作品」「アートとしての評価が分かる作品」「解釈が難しい作品」という3つの作品を順番に取り上げ、タイトルや作者の制作意図などの解説を加えながら、考えさせる授業を展開しました。



左は3つめに取り上げた作品ですが、「完璧な恋人たち」というタイトルと、わずかに秒針がずれている点に着目させながら、作品に

込めた作者の意図に迫らせていました。生徒は「今は完璧に見える恋人であっても、すでに小さなずれが生じており、それは時間の経過とともに大きくなっていく」「完全な一致を求めるよりも、少々ずれていることを理解し合うことの方が大切なのだ」などの意見を発表していました。

【実習を終えて】

教育実習期間を通して、授業の質を上げるということは、必要なものを精選し、不必要なものをそぎ落とすことであると実感しました。そしてこのことは授業以外のケース、たとえばものづくりや文章作成などにも当てはまる重要なことであると気が付きました。

限られた条件の中でよりよいものを創り出すために、取捨選択する力をこれからも養っていきたいと思います。

〔担当：嶋崎〕



コミュニケーションデザイン専攻
3年 豊川 遥菜さん
〔青森県立三本木高等学校附属中学校〕

【実習校の概要】

- 実習期間 令和7年5月12日(月)～30日(金)
- 配属学級 3年2組
- 県内でも有数の進学校である三本木高等学校に、平成19年に中学校が併設され、県内初の中高一貫教育校となりました。

【研究授業の様子】



自画像制作がテーマで、本時では髪の色塗りが主な作業となっていました。手本として自らの自画像制作の過程を3つの段階で示しながら、それぞれの制作段階における注意点を簡潔に指導するなど、生徒の視覚に訴える授業を展開していました。

授業内での指示・指導が適切で、生徒とのやり取りを通して生徒の理解度を確認したり、必要に応じて生徒の注目を引きつけ指導をするなど、とても落ち着いた授業運びでした。

研究授業を行ったクラスは、今回の実習期間に配属されたクラスでもあり、生徒とのコミュニケーションも良好で、こまめに机間巡視を行い、手間取る生徒、質問のある生徒には誠実に対応している様子も見られました。



指導担当の先生からは、忙しい中授業の準備を効率よくテキパキと進めることができているとの評価をいただきましたが、今回の授業にしっかりと現れていました。教育実習における様々な経験が、本人の今後の生き方に良い影響を与えてくれるものと感じました。

【実習を終えて】

本時は前日に同じ部分の授業を他の学級で行っていたこともあり、見通しを持って進めることができました。ただ、研究授業の日が高校の総体期間にぶつかって45分授業となってしまったため、時間が押して、指示や説明が早口になってしまったこともありましたが、それでも、個々の生徒の受け取り方に違いがないよう具体的な説明やスライドの利用など、視覚に訴えたわかりやすい指導を心がけました。

〔担当：佐藤〕



アーツ&ルーツ専攻
3年 佐々木 空 さん
〔茨城県立笠間高等学校〕

【実習校の概要】

- 実習期間 令和7年5月26日(月)～6月6日(金)
- 配属学級 1年1組
- 「芸術のまち笠間」で創立116年の伝統を誇る「普通科」「美術科」「メディア芸術科」で構成される特色ある学校です。

【研究授業の様子】



鑑賞の時間を2コマ担当し、1コマ目に身近な事物が発する言葉を感じ取って吹き出しをつける学習活動を経験し、研究授業となる2コマ目で、茨城県立陶芸美術館が公開しているデジタルアーカイブから選んだ作品に吹き出しをつけて、生徒同士が作品から醸し出される感情を説明し、対話する授業を行いました。

1コマ目の授業が活かされ、実際の美術作品を目にした生徒は、作品の隅々まで目を凝らし、思い思いの感情を吹き出しに書き込むことができていました。



同じ作品でも生徒が抱く感情は十人十色で、対話の時間が経過するとともに鑑賞の視点に変化し、深い学びにつながっていきました。

笠間高校は、「普通科」「美術科」「メディア芸術科」の3科で構成されていますが、このたびの授業は「普通科」の生徒が対象で、陶芸作品に対して興味・関心を抱かせることができるかどうか不安であったものの、吹き出しを活用することで鑑賞の裾野を広げる効果を発揮することができました。

反省会では、校長先生はじめ、美術科の先生方、教育実習生が参加し、それぞれから意見や指導助言をいただくことができ、好条件の教育環境の下、教職員の協力により充実した教育実習になったことは間違いありません。

【実習を終えて】

吹き出し書きに悩んでいる生徒にどのように声をかけるべきか、一方で吹き出しを書いている生徒には、どのように会話を広げていくべきか、言葉かけの難しさを実感しました。

身近に美術鑑賞ができる恵まれた環境にある笠間市で高校生活を送っている普通科の生徒たちが、このたびの鑑賞の授業を通して気軽に美術館に足を運んでくれたらうれしく思います。

〔担当：谷 村〕



ものづくりデザイン専攻
3年 駒 込 朱 音 さん
〔北海道札幌手稲高等学校〕

【実習校の概要】

- 実習期間 令和7年6月9日(月)～27日(金)
- 配属学級 1年5組
- 札幌市民の心の拠りどころである手稲山を仰ぎみる創立52年の学校です。「継続は力なり」を校訓とする進学型普通科単位制高校として知られています。

【研究授業の様子】

題材名は「見えてくる別世界」。身近なものを全く別のものに見立てて、それがより本物らしく見えるような世界を創作する授業で、1年生を対象とした全6時間の表現の題材でした。参観したのは、作品を完成させ、その後、別の何に見立ててどんな世界を創作したのかを発表しあい、相互評価を行う2時間続きの最終授業でした。



実習生は、生徒たち一人一人の顔を見ながら、十分な声量で堂々と授業を展開しているだけでなく、次の活動に移る際は、生徒たちの手を一旦止めさせ、全員の

顔が自分の方に向いていることを確認してから指示を出すなど、常に生徒たちの状況に気配りしていたことはたいへん見事でした。

作品を見て、身近な物を異なる物に見立てる生徒たちの発想はどれもたいへんユニークなものでしたが、その素晴らしさを的確に表現・評価する実習生の言葉には、美術の授業の楽しさを実感させる力がありました。

加えて、私の傍らで「今日が最高の授業！」と褒め称える指導の先生の笑顔もとても印象的でした。



【実習を終えて】

教育実習を終えて、得たものはたくさんあります。人の考えを受け止め、伝えやすく翻訳すること。本質を見る目をもち、そこにどうアプローチするかを考えること。これはおそらく美術の授業だけではなく、これからの自分自身の学びや、人との関わりにもつながっていると感じます。そして、改めて「美術で人は成長できる」という思いが強くなりました。技術を学ぶだけでなく、表現を通して自分と向き合い、思考し続ける生徒を育てられる教師になりたいです。

〔担当：齋 藤〕

教職入門(1年次)を終えて

◇ はじめに

教育実習関連の導入科目である教職入門では「教職の魅力ややりがいとは?」「美術教育の意義とは?」という二つのテーマに基づき、日新小学校および美大附属高等学院での体験実習を中心に学びを深めていきました。



授業の中で大事にしてきたことは、実習先での体験活動以上に、事前・事後の協議や考察でした。これまでの経験等をもとに、テーマに対する仮説を立て、グループで話し合い、実習を通して検証し、振り返って考察するサイクルは、教職に対する見方や考え方の変化や深化につながりました。

また、話し合いを重ねる中で、机を並べるお互いのコミュニケーションの深まりにもつながったのではないのでしょうか。



◇ 教職の魅力・やりがいとは?

新校舎が完成した日新小学校を訪問し、グループごとに5、6年生の各学級で授業参観と授業のサポートを行いました。「先生」と呼ばれる初めての体験にくすぐったいものを感じながらも、児童とのふれあいを



楽しみ、教職の魅力について考える機会となりました。

また、訪問前には黒沢校長先生から貴重なお話をいただき、発達の段階に応じた教育の大切さについて理解を深めることができました。



◇ 美術教育の意義とは?



本学の前身であり、特色ある美術・工芸教育に取り組んでいる秋田公立美術大学附属高等学院では、昨年度に引き続き、岸本副校長先生の刺激的なご講話を皮切りに、木材

工芸、金属工芸、インテリアデザイン、ビジュアルデザインの各コースの授業参観と指導に当たられている先生方との懇談を行いました。



な美術教育を目の当たりにして、美術教育の意義や大切さについて、一人一人が自分なりの答えを見いだす貴重な機会となりました。

〔 レポートから 〕

- 子どもたちの絵を見るとき「何が描いてあるか」よりも「子どもたちの内面に何が起きているのか」という見方で、その子自身の学びの過程を評価することの大切さを実感しました。
- 授業のサポートの際「〇〇先生、ここはどうすればいい?」と尋ねられました。「先生!」と呼ばれて心が震えました。
- 美大附の先生方との懇談会で特に印象に残ったのは「作り手としてだけでなく、作品の受け手として豊かに感じ取れるようになってほしい」というお話でした。美術教育の意義について、たくさん、たくさん考えさせられました。
- 「教師とはどのような存在か」「授業とは何か」「美術の楽しさを伝えるためにはどうすればよいか」…、これからの学びの中で自分なりの答えを探し続ける覚悟です。

教育実習関連科目は、後期に「学校体験実習1」を履修します。お隣の秋田西中学校を訪問し、学校における組織的な指導体制や子どもの主体性を高める指導などについて考えます。

教員採用試験情報

教員採用試験は、現在、各自治体で二次試験が始まっています。一次試験が筆答試験中心であるのに対して、二次試験は面接、集団討論、実技、小論文など、より専門的かつ人物重視の内容となります。

試験内容や傾向性は自治体ごとに特色があり、突破を目指すためには志望自治体ごとのリサーチが欠かせません。最も正確でたくさんの情報が得られるのは、それぞれの自治体(教育委員会)のHPです。「〇〇県 教員採用試験」で検索すると上位に表示されます。ぜひ目を通しましょう。

大都市圏をはじめとする私立学校の教員募集もあります。「教員採用.jp」や「T-POST」といった採用情報サイトも運営されています。興味関心のある人、気になる人はのぞいてみませんか。

そのほか、後期に入ると令和9年度以降の採用を見据えた説明会等の案内が各自治体から届きます。教職志望や帰省先などを勘案してお知らせしていきますので、ぜひ参考にしてください。

教員採用試験対策セミナーは“月曜5限”、「教職および博物館学芸課程センター」(教職支援室隣)で実施しています!

後期は**10月15日(水)【月曜授業】**からです。